

学びのR

No. 7 (平成30年1月)
 埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform（改革）」の頭文字です

*** 「思考ツール」で授業改善 ③ *** ~思考の可視化で学びを深める~

*今回は、「ウェビングマップ（ウェビング）」（小学校3年生での実践例）を紹介します。

ウェビングマップを活用すると、多面的に主題を捉え、思考や発想を広げたり、関連付けたり、まとめたりすることができます。白紙の中央にキーワードを1つ書き、そこから思いつく言葉を次々につなげて書き出す活動をすると、くもの巣（web）のように広がっていくのです。



思考ツールを活用した授業実践事例 ③ ウェビングマップ

小学校 第3学年 総合的な学習の時間

「発見！ わたしのまちじまん」

本時のねらい

身近な地域に興味、関心を持ち、歴史、伝統、文化、自然などについて、自慢できるものを見つける。

思考ツール活用の意図

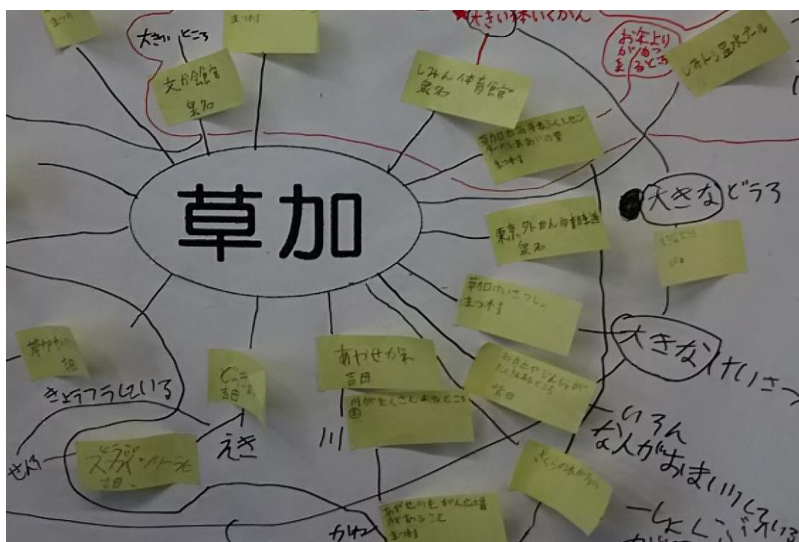
身近な地域に興味、関心を持ち、調べたり体験したりしたことを発表する一連の学習において、その初期段階で扱う。既存の知識を次々につなげていき、発想を広げることで、身近な地域のよさを数多く見つける。グループで情報を持ち寄り、共有化し、まとめるために、ウェビングマップを活用し、思考の可視化を図る。

具体的な活用方法

- ①対象とする身近な地域についての資料を読んだり見たりする。
- ②既存の知識や①で触れた資料から、身近な地域のよさを付箋などに書き留める。
- ③キーワードが中央に書かれたワークシートに、②で書き留めた付箋を、線で結びながら貼っていく。グループ活動とし、同一の内容や類似する内容を近くに貼る。
- ④付箋の内容から連想される事柄をさらに書き加えたり、内容のまとまりを書き込んだりして整理する。

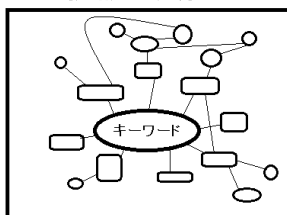
思考ツール活用の成果

思考の内容や過程が可視化されることで、グループや学級で学習内容を共有し振り返ることができた。また、その後の学習で児童が追求する課題をつくる際に、成果物を活用した。



【ウェビングマップ】

拡散・具体化



中央に対象とするキーワードを記入し、そこから連想される言葉や情報を書き出し、つなげていく。参加者の思考の広がりを促すと同時に、課題づくりや活動計画づくりなどで活用できる。

また、成果物を分析し、つなげられた言葉を分類するなど、思考を整理することができる。



他教科等での活用のヒント

<国語>

学校紹介など、伝えたい内容を効果的に伝えるために、表現の工夫をしてリーフレットを作成する際に活用できる。中心のキーワードを「〇〇中学校」とし、生徒自身の体験をもとに、学校行事や諸活動など、取り上げたい話題について発想を広げる。

小学校の学習でもウェビングマップを扱っている場合には、その際の記録等を確認しておく、指導に有効である。

道徳での実践映像が「道徳アーカイブ」（文部科学省HP）でご覧いただけます。



類似した手法として、思考の広がりを促すための「マインドマップ」もあります。



「学びのR」
 はこちらからも
 御覧いただけます！



話合いの手立て

Ⅲ インタビュー



「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることなどを通じ、自己の考えを広げ深める『対話的な学び』が実現できているかという視点」からの授業改善が求められています。この具体的な手立てとして、様々な言語活動が実践されていますが、ここでは「インタビュー」について考えてみます。

【学習課題の例】「いろいろな職業を調べて発表し、仕事をする意義についての自分の考えを持つ。」

【学習の手順】

- ①学習活動の手順や職業の種類などについて理解し、見通しを持つ。
- ②調査対象の職業を選択し、インタビューの際の質問を考える。
- ③児童生徒同士で模擬インタビューを行い、質問の明確さや言葉遣いの適切さについての相互評価を通して、質問を修正する。
- ④実際にインタビューを行い、その内容を具体的に整理する。
- ⑤まとめたものを共有し、仕事をする意義についての考えを整理する。



【留意点】

- 相手の立場に立ったインタビューができるように、質問を用意する。
- 手順②では、必要な内容や関心のある内容の回答を得るための質問を、具体的に書き留めさせる。その上で、質問の順序や、相手の回答による補助質問を予め用意させる。
 - 手順③では、ペアやグループでの活動を設ける。質問が相手にどのように理解されるか、ねらいに沿った回答を得られる質問になっているか、相手に応じた言葉遣いになっているかどうかを相互評価させる。さらに相互評価を受けて、自己の用意した質問を修正できるよう指導する。

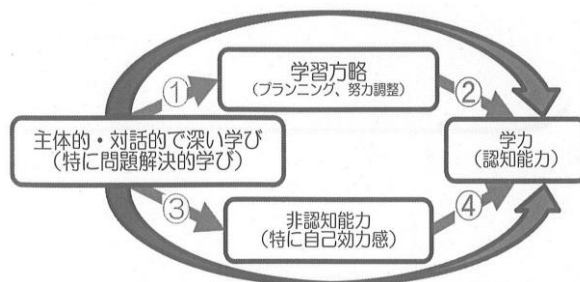
インタビューは、児童生徒の発達の段階に応じた主題を設定することで、繰り返し活用することができる言語活動です。過去のインタビューの言語活動を通して身に付けた知識や技能を活用したり、適切に他者と関わり合いながら課題解決したりする資質や能力を育成できると考えられます。

* 授業力向上ミニ講座 * 「主体的・対話的で深い学び」と学力向上

平成27年度より実施している埼玉県学力・学習状況調査は、児童生徒の学力の伸びや変容を見とることができる調査です。また、「質問紙調査」と「教科に関する調査」のクロス集計をすることによって、学習指導の取組と学力の相関などを見とることもできます。

平成28年度までの2回の調査から分析を進めたところ、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）が児童生徒の学力向上に有効であることが裏付けられました。

主体的・対話的で深い学び（特に問題解決的な学び）に取り組んできたと考えられる児童生徒は、計画的に学習に取り組んだり、「苦手」などの感情をコントロールして学習に取り組んだりする学習方略^{※1}を身に付けることができます。同時に、「自分にはできる」という期待や自信のような非認知能力^{※2}も身に付けることができます。そして、学習方略や非認知能力を身に付けている児童生徒は学力が高い傾向にあることがわかってきました。



※1 学習方略：学習の効果を高めるために児童生徒が意図的に行う活動（例：プランニング方略）

※2 非認知能力：意欲や姿勢など、数値化されない能力（例：自己効力感、自制心など）

参考 「小学校学習指導要領解説 総則編」、「中学校学習指導要領解説 総則編」 文部科学省
「平成28年度中学校全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア集」 国立教育政策研究所
「ウェビング法 一子どもと創出する教材研究法」 關 浩和 明治図書
「ザ・マインドマップ」、「勉強が楽しくなるノート術」、他 トニー・ブザン ダイアモンド社

* ウェビング (webbing) を「ウェッピング」と表記している書籍等もあります。